

令和3年度(2021年度)八王子市立中学校・義務教育学校(後期課程)使用教科用図書調査研究報告書(選定資料作成委員会)

種目 社会 公民 (1/1枚目)	発行者名	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
<p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮(現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習) ・課題設定から解決までが構造化されており、思考を整理するツールが多く、学びを深化させる工夫をしている。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・課題へのアプローチの仕方に配慮があり、主体的に見通しをもって取り組むことができる。</p>	<p>(1)各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮(現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習) ・各章の導入時とまとめに、身に付けるべき見方・考え方を明確に示している。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・各章の導入からまとめまで、一連の学習が明確に示されているため、見通しをもちながら取り組むことができる工夫を示している。</p>	<p>(1)各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮(現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習) ・単元の構造化や特設ページの充実により、見通しがもて、課題解決的な力を育みやすい。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・各章の導入として「学習の前に」が設定されており、生徒の工夫や生徒の興味・関心を引き出す工夫を示している。</p>	<p>(1)現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習 ・現代的な諸課題を考察する教材が豊富で、課題解決の視点を明示している。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・親しみやすいキャラクターが登場し、気付きや問い、学習方法や課題解決の手がかりなどを示唆している。</p>	<p>(1)各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮(現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習) ・見方や考え方を働かせる内容が少ないが、考えのまとめ方やアイデアの出し方を掲載し、毎時の学習ポイントを整理している。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・見通しをもたせる構造化よりも、語句や内容の解説に力を入れている。</p>	<p>(1)各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮(現代社会の見方・考え方を働かせた課題解決的な学習) ・見方や考え方を働かせる特設ページがある。 (2)発達段階に対する配慮(学習の見通しについて) ・まとめのページは少ないが、「学習の入り口」が導入で設定されており、学習の流れをつかむ工夫をしている。</p>	
<p>2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・章ごとに、学習を貫く探求課題を立て、本文ページで追究し、「みんなでチャレンジ」「見方・考え方」「読み取る」を通して、章末のまとめの活動で解決を目指す構成となっており、章を通して、工夫されている。 ・単元ごとに資料読み取り課題や思考力、判断力、表現力を問う課題を配置している。 (2)各領域の構成・分量 ・分野関連マークや教科関連マークを設け、学習の連携を図る工夫をしている。また、小学校で身に付けた技能を活用するコーナーも設置している。 ・探求ステップというワークシートが段階的に取り組みやすい。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・本文ページ初めの学習課題を受けて、資料の読み解きのために随時設けられている「読み解こう」や「公民の技」を経て、毎時の学習の最後に確認・表現のコーナーの問いに取り組むことで、自ら学び考える学習が実現できるよう工夫している。 ・「言葉で伝え合おう」の特設ページを中心に、グループ学習活動を用意している。 (2)各領域の構成・分量 ・本時見開きの左ページ下に小学校、他分野、他教科との関連を示すマークを付して、学習の連携や振り返りを図る工夫が見られる。 ・本文中の重要語句などの分量も適量で、コラムなどの発展的学習につながっている。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・対話的な学び、深い学びの実現に向けて、特設ページ・コラムを設けている。また「アクティブ公民」では、課題について見方・考え方を働かせながら、学習した内容をさらに深める工夫をしている。 ・章の学習の振り返りで知識を問う課題と、思考力・判断力、表現力を問う課題に分けて構成している。 (2)各領域の構成・分量 ・本時見開きの左ページ下に、小学校、他分野、他教科との関連を示すマークを付して、学習の連携や振り返りを図る工夫が見られる。 ・本文中の重要語句などの分量も適量である。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・本文ページに見方・考え方コーナーを設け、学習課題解決の手がかりとしている。 ・「深めよう」で資料の読み取りや協働学習を重視し、「アクティビティ」で資料を読み取り、思考・判断する課題が多く掲載されており、主体的・対話的な課題を多く設けている。 (2)各領域の構成・分量 ・導入の「学習の始めに」で連携コーナーを設けており、小学校の学習内容を再確認できる構成としている。 ・本文中の重要語句などの分量も適量である。コラムなどで発展的学習につなげている。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・本文ページ「やってみよう」では、本時の学習を受けての言語活動を促しており、各章にある「アクティブに深めよう」では、課題がワークシート形式で書き込みしやすい。また、学習内容を深めるためのコラムでは、多面的・多角的に学習できる工夫をしている。 ・文章での表現、説明が主であり、生徒自身で意見を分類し、まとめる構成になっている。 レポートやディベートの仕方が掲載されていて活動に取り組むやすい。 (2)各領域の構成・分量 ・小学校や他分野との関連を「ミニ知識」で示しており、学習の連携を図る工夫が見られる。 ・重要語句は適量である。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・問題解決型の学習の教材配列に工夫が見られ、学習内容を深めるための「学習を深めよう」、言語活動を促すための「やってみよう」といったコラムを設けている。 ・生活に即した課題が見られ、主体的・対話的で深い学びにつなげられるものもあり、ディベートやレポートのやり方が掲載されていて、活動に取り組むやすい。 (2)各領域の構成・分量 ・段階的に様々な言語活動に取り組める章構成となっており、章扉では、小学校段階で学んだ事項とともに、考えられる内容を紹介している。 ・重要語句は適量である。</p>	
<p>3 情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。 (1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。 (2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・各章の学習は、単元全体を貫く問いをもとに、毎時の学習課題を解決しながら進め、終結部でまとめることで課題解決的な学習を進めることができる。これらの一連の学習により、情報を活用しながら論理的思考を育む工夫が見られる。 ・ICTと現代社会との関わりについての学習内容が豊富である。情報モラルやメディアリテラシーについて、具体的な活動を通して学べる内容になっている。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・教科書上にDマークが設定され、デジタルコンテンツで家庭学習をしたり、学習を深める情報収集に活用できるQRコードなどの工夫が見られる。主なコンテンツに、「選挙シミュレーション」「三権の抑制と均衡の関係」などがある。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・本文の見開きページの「読み解こう」では、写真、地図、グラフ等の多様な資料の読み解きについて、問いを手掛かりに取り組むことができ、それにより資料活用能力や論理的思考力を育む構成になっている。 ・重要な情報源となる各種メディアの活用方法など、情報リテラシーの育成にも配慮が見られる。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・特設ページ「メディアの活用」では、「情報収集と活用」を特集し、小学校第5学年の情報の単元の学習を復習しながらインターネットや新聞等のメディアの特色を具体的に取り上げている。また、各章の扉ページに「まなびリンク」を設け、QRコードを配置し、教育出版のサイトにアクセスすることができる。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・特設ページとコラム内「技能をみがく」では、資料を活用したり、ロールプレイングをしたりして論理的思考力を育む構成になっている。また、各章末には「章の学習を振り返ろう」が配置され、章の問いに対して、社会的な見方や考え方を働かせて考えるステップなどにより、課題解決的な学習ができる工夫が見られる。 ・ICTが様々な分野で活用されていることを実感できる教材が豊富である。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・デジタルコンテンツを家庭学習や学習を深める情報収集に活用できるようQRコードを配置している。WEBコンテンツ内には動画やアニメーション、知識を問うワークシートなどを掲載している。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・特設ページ「情報スキルアップ」の統計資料やグラフの取り扱い方等、現代の社会的事象に関する情報を調べ、まとめる技能の育成を目指している。また、「ニュースの見方・考え方」「資料活用コーナー」を設けるなどの工夫が見られる。さらに、シンキングツールマーク等を設けることにより、考える際の足掛かりになるようなピラミッドチャートやクラゲチャートなども紹介している。 ・特設ページで情報リテラシーや情報モラルなどを身に付けられるよう配慮されており、論理的思考力を育む工夫が見られる。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・デジタルマークとして、QRコードが配置され、動画やワークシートを利用できる。また、第5編では、プレゼンテーションソフトの活用方法についても触れ、その注意点なども掲載している。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・特設ページ「アクティブに深めよう」では、様々な資料を活用し、言語活動を通して論理的思考力を育む構成となっている。新聞記事を活用したページもある。また、「課題の探求」では、「レポートと卒業論文」を作成する探究的な課題を設定している。 ・情報リテラシーやメディアリテラシーの学習を通して、情報活用能力の育成を図っている。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・情報化についての内容に工夫を凝らし、内容も充実している。</p>	<p>(1)情報活用能力を育む構成について(論理的思考力の育成) ・新聞記事を多く掲載しており、本文の見開きページで「学習のまとめ」(鉛筆マーク)を設けたりするなど、学習内容について論理的思考力を生かし、深める工夫がされている。 ・重要な情報源となる各種メディアの活用法など、情報リテラシーの育成にも配慮している。 (2)コンピュータ活用の工夫 ・情報化についての内容に工夫を凝らし、内容も充実している。</p>	
<p>4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。 (3)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・分野関連マークが付けられ、地理や歴史の学習内容と関連付けて指導できる工夫をしている。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・資料掲載部分と本文部分が色付けによって分けられており、視覚的にわかりやすくなっている。グラフや地図は、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色で、視覚的に見やすくなっている。 (3)地域性の配慮 ・東京については豊島区の太陽光発電、大田区の空港、渋谷区のハロウィン、葛飾区の日本語学級、国会議事堂や各省庁など、区部を中心に数多く紹介されている。国内外とも、地域的な偏りはなく、バランスよく掲載している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・2ページの見開き構成である。地理や歴史を意識した構成となっており、3つの分野の関連を意識できる工夫をしている。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・グラフや地図は、カラーユニバーサルデザインに配慮した色の組み合わせになっており、視覚的に見やすくなっている。 (3)地域性の配慮 ・東村山のハンセン病資料館や三鷹市議会など、多摩地区の写真も見られる。国内外の資料や写真は、バランスよく配置している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・2ページの見開き構成で、諸資料には図番号が明確に示されており、指示しやすい工夫をしている。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・カラーユニバーサルデザインに配慮した色の組み合わせになっており、視覚的に見やすくなっている。 (3)地域性の配慮 ・相模原のJAXAや東村山の保育園、多摩川流域での環境への取組の写真など、八王子周辺の資料も見られる。国内外の資料についてもバランスよく配列している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・2ページの見開き構成であり、学習課題を明確に明示している。また、学習課題の解決に向けた手がかりである「見方・考え方」の例を示すなど、工夫している。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントが採用されており、読みやすい工夫をしている。各単元で、単元カラーが設定されており、色遣いを統一している。 (3)地域性の配慮 ・相模原のJAXAなど、八王子から見て身近な写真も提示し、国内外の写真をバランスよく示している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・基礎的な事項がバランスよく盛り込まれている。2ページの見開き構成で、各章とも歴史的なアプローチをしながら進んでいる。 (2)生徒にとっての読みやすさ ・各章に学習のまとめと発展のページを設定し、重要語句が確認できる工夫をしている。 (3)地域性の配慮 ・4か国の国会議事堂を写真で比較したり、八王子にほど近い日野新選組祭りの様子を取り上げている。国内外の写真は地域的にはバランスよく掲載されている。表紙の裏に「わが国の領域」を明示している。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ ・地理・歴史との接続が意識され、地理・歴史で学習した内容を振り返ることができる工夫が見られる。 (2)生徒にとっての使いやすさ ・図版資料に通し番号がついており、生徒が確認しやすいようになっているとともに、「やってみよう」はゲーム感覚で取り組むことができる工夫が見られる。 (3)地域性の配慮 ・国内外の写真はバランスよく載っている。武蔵村山の高齢者施設、相模原のフードロスに関する写真、町田市市内中学校における講演会の様子など、八王子周辺の資料も見られる。</p>	
<p>5 その他</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・「メディアと世論」、「ライドシェアリング」、「ちばレポ」、「スマホ決済」でSNS利用に触れている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・教科書全体で「環境・エネルギー」、「人権・平和」、「伝統・文化」、「防災・安全」、「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識して学習する工夫が見られる。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・「もっと公民」や統計資料で、日本人の心やオリンピック前回大会に触れている。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・巻頭「アプローチ」でSNSの長所や短所に触れている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・巻頭でSDGs17項目をマーク付きで解説するとともに、各章末に関連するSDGsの項目を挙げ、終章でのまとめにつながる構成となっている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・オリンピック・パラリンピックに限らず、メディアの活用例や国内の経済格差の一例としてオリンピックを紹介している。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・第4部第1章2節「4国際社会のよりよい発展」では、SDGsについてマークを付けて解説している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・「現代社会の特色」では、災害時のSNSの意義に触れている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・オリンピック・パラリンピックについては、前回大会の様子やパラ女子マラソンの様子、新国立競技場建設の様子を紹介している。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・「情報スキルアップ」で、ネット社会と付き合う方法をわかりやすく例示している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・表紙の裏にSDGsに関する写真を提示し、それが17項目のどれにあたるかを問いかけている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・「明日に向かって」において、東京オリンピック・パラリンピックを紹介し、次の世代へバトンをつなぐための日本の取組について紹介している。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・序章の「情報社会」でSNSの説明、「やってみよう」でSNS利用の際の注意点を考えさせている。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・持続可能な社会に向けて、「レポートと卒業論文」を作成する探究的な課題を設定している。 (3)オリンピック・パラリンピック教育について ・過去のオリンピックやサッカーワールドカップなどを通して、日本人の精神や愛国心について触れている。</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・高度情報社会の課題として、情報リテラシーの重要性を述べるとともに、スマホ事故の裁判事例や流通における直接販売の例としてスマホを例示している。 (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・SDGsの17のゴールが示され、教科書の学習内容についてその中のどれにあたるかを考えながら学習できるように工夫している。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・環境立国としての日本の取組に着目し、リサイクル金属からオリンピック・パラリンピックのメダルが製造される様子を紹介している。</p>	